

第3回

(仮称)多可町生涯学習センター建設基本計画

策定検討委員会

## 会議録

《要約版》

事務局 多可町生涯学習課

### 第3回(仮称)多可町生涯学習センター建設基本計画策定検討委員会 会議録

- 日時 令和3年8月6日(金) 午後7時～午後8時50分
- 場所 加美コミュニティプラザ 大ホール
- 出席者 19名/24名(敬称略)
- ・委員長 小嶋 明
  - ・副委員長 宮崎 和明
  - ・委員 大上 和徳      南畝 香野子      吉田 忠雄      門脇 昌弘      布一 和也  
清水 賢彦      山口 達也      遠藤 ひとみ      植山 晶子      岡本 美紀  
吉川 清      杉本 真      山本 和樹      萬浪 佳隆      近藤 なぎさ
- リモート) 山本 早希      古南 宏恵
- ・町職員 防災環境担当理事兼建設課長      藤原 照明  
財政課長      土田 五郎
  - ・事務局 地域共生担当理事兼ふくし相談支援課長      藤原 正和  
生涯学習課 課長      檜本 一郎  
生涯学習課 副課長      梅田 一志  
教育担当理事兼教育総務課長      藤本 志織  
教育総務課 図書館長      畑中 俊裕  
教育総務課 図書館司書      依藤 啓子
- 議題 (1)次第3 議事(1)建設候補地について(提案)  
(2)次第4 レクチャー・考察  
(3)次第6 委員によるプレゼンテーション  
(4)次第7 議事(2)第4回検討委員会へ向けて  
(5)次第5 報告事項
- 会議結果 (1)事務局から生涯学習センターの建設候補地について5つの案を提示し、それぞれの特徴について説明を行いました。  
(2)生涯学習センターの建設について、防災・都市計画の観点と財政・公共施設マネジメントの観点から、町職員によるレクチャー・考察を行いました。  
(3)公募委員を中心に、一人あたり5分程度、応募の動機や生涯学習センターに期待することなどをプレゼンしていただきました。  
(4)次回検討委員会の議題について、事務局から提案しました。  
(5)視察研修、高校生ワークショップ、中学生サミットの結果について、各参加者から簡潔にご報告をいただきました。  
※ 進行の都合により、次第順序を変更しました。



<p>(委員長)</p>	<p>そのような検討の中で、改めて4つの案を提案します。①アスパル東駐車場（現：職員・中央公園グラウンド駐車場）②アスパル東隣接地（現：アスパル駐車場を含む）③中央公園のテニスコート（現：多目的グラウンド）④中央公園児童広場。それぞれの場所のメリット・デメリットは改めて整理をしますが、平成25年の検討時点から、現況は大きくは変わっていませんので、ほぼ同様になると思われま</p> <p>す。</p> <p>また、平成25年時点では⑤案として役場本庁舎の位置がありましたが、それは役場本庁舎が動く前提であり、既に同位置で本庁舎が建て替わっていますので、その位置はあり得ません。そこで、中コミュニティプラザ位置を考えて検討したのが、新しい⑤案です。平成25年に検討した規模の建物が収まるかを検討しましたが、資料のとおり収まるか収まらないかの大きさです。駐車場確保等を考慮すると複層階も検討の必要があると考えます。また現時点で資料に記載していませんが、中プラザの現駐車場内には商工会館建設の予定があり、町としても商工振興のために商工会館建設を支援する姿勢です。実際のところ同敷地内に2つの建物は難しいと思われま</p> <p>す。</p> <p>以上の5つの案を本日提案するにあたり、事前に役場内でも協議を行いました。専門的見地からの考察、意見につきましては、それぞれ所管課長の方から見解を後程いただきたいと思いま</p> <p>す。</p> <p>①から④まではアスパル周辺、⑤が中プラザと、2つに分けることができます。しかし、⑤中プラザの件につきましては、既に商工会館が予定されており、無理である見込みの話になりますので、実質①から④までのアスパル周辺が有力になると思いま</p> <p>す。</p> <p>候補地の検討については、都市計画とか建設課で進めているまちづくり計画とか防災の観点に関係してきま</p> <p>す。</p> <p>また従前から申し上げているように、多可町の中長期の財政計画についても情報を共有いただけたらと思いま</p> <p>す。</p> <p>役場の関係課から説明をお願いします。</p>
<p>次第4</p> <p>防災環境担当理事 兼建設課長</p>	<p>レクチャー・考察</p> <p>1)建設候補地について（防災・都市計画の観点から） （都市計画）</p> <p>皆様あまり馴染みがないと思いますが、都市計画というのは都市の健全な発展と秩序ある整備を図り、国土の均衡ある発展をもって公共福祉の増進に寄与する、という目的で定められています。</p> <p>産業が発展し、人口増加の中で、まち中で住宅が建ち、工場が建設され。簡潔に言いますと、住宅地の中に工場などが建たないように規制する法律ができています。且つ下水道を整備したり、道路を整備したりして、皆さまが生活しやすいようにするための法律です。</p> <p>多可町に関しては、中区のみが都市計画区域に設定されています。しかし、住宅・工場・商業というような区域は、全く定められていません。旧中町だけ昭和36年に指定されましたが、今後も大きな人口の伸びもなく、急激な都市化は図らないだろうということで、区域区分の設定はありません。近隣の西脇市の例で</p>

は、市街地には住宅地や商業地の区分が設けられています。その代わりに多可町に近い地区では、市街化調整区域といたしまして、逆に市街化を抑制する区域になっています。

現在、多可町では都市計画マスタープランの策定に取り組んでいます。これも難しいので、まちづくり計画土地利用版のようなイメージで考えてください。

従来の人口増加と都市の拡大を基調とした都市型社会から、安定成熟社会へと移行し、中山間地域では少子高齢化の一層の進展により本格的な人口減少を迎えております。さらに自然災害の頻発、環境問題の深刻化、地域分権社会への移行などにより、人々の価値観やライフスタイルなどに大きな変化が生じております。

こうした転換期に当たって、本町のこれからのまちづくりには長期的・広域的な観点から町の将来像や整備の方針を、明確かつ計画的に進めることが求められています。また、住民・事業者・行政など多様な主体が参画・協働し、生活環境の充実や地域の個性を生かしたまちづくりに取り組んでいくことが重要となっております。こうした状況を踏まえて、本町の最上位計画である総合計画を基本に、土地利用の面でより具体的なまちづくりの方針として、現在、都市計画マスタープランを策定しているところです。

ちなみに都市計画区域によって、今まで何ができたのかといいますと、中区では国道 427 号線、中町東線などの幹線道路ができています。加美区、八千代区は農業集落排水、コミプラの下水道排水ですけども、中区は大部分が公共下水道、これは都市計画法に基づいて設置されています。余暇村公園やアスパル周辺も都市計画でできた公園です。

市街地の区域は、中区の都市拠点と加美区・八千代区の生活拠点で、今後計画的に住宅・商業・工業・公共施設などの配置を行い、市街地としての土地利用を誘導していくエリアです。強引に誘導するという考えではなく、例えば農業区域では今の自然と共存した営みは続けてもらって、新たに商業や公共施設を建設するのであれば、所定のエリアに建設して欲しい、という考えです。

中区のまちづくりの方針図について、都市拠点は、行政施設・商業施設・医療福祉施設など、多可町全体的な都市機能が集積するところとしています。利便性を高め、活性化に資する都市機能や、全庁的な公共施設が集積するシビックゾーンとしての機能の充実・強化や、計画的な市街化の誘導を図る地域としています。

また、都市活動地区として、役場周辺を含む地区を都市活動地区と位置付けています。都市活動地区は商業・産業等の都市機能の充実・強化、人が集まり様々な都市活動が行われる、本町の賑わいの拠点地区を形成しているところです。また、役場・文化会館等、全庁的な公共施設が集積するシビックゾーンとしての機能の充実・強化も図ります。生涯学習センターの整備などにより、住民の文化の向上とコミュニティー活動のさらなる活動を推進するエリアとして、アスパル周辺を位置付ける予定としております。しかし、あくまでも区域区分がないため、法の規制はなく、町の方針を描いたものです。

#### (防災)

続きまして、防災面です。

ハザードマップは想定最大降雨・概ね 1000 年に 1 回予想される最大の浸水等を示しております。雨量で言いますと 48 時間に 750 ミリの猛烈な雨です。直近の 7

月で一番ひどい時が時間 23 ミリのため、相当な雨が長時間降らなくてはこれに該当しません。

健康福祉センターアスパル付近については盛土を行っています。現況から地上げしておりますので、一部を除いて浸水しない区域となっています。現在の職員駐車場の場所など、他は 0.5 から 3 m 未満の浸水の恐れがある区域になります。よって生涯学習センター建設に対して言いますと、アスパルと同様に盛土を施せば、浸水は回避できるものと考えております。

続いて、杉原川沿いに河岸浸食が生じる区域があります。河岸浸食とは、浸食が生じると家屋の基礎を支える地盤が流されたり、家屋本体が鉄筋コンクリートとか木造によらず、倒壊・流出の恐れがある施設、という設定がなされています。

これはハード面の話で、ここに建ててはいけません、ということではなく、あくまでも早めの避難を行う、という観点で防災マップは作られていますので、建築の制限をかけるものではありません。

この河岸浸食区域は、アスパルの一部に半分ほど掛かって、杉原川に沿って設定されています。河川沿いは狭い・広いは関係なしに、河岸浸食区域が設定されています。アスパルの向かいの山がある場所は、河岸浸食は当然起きないです。ただ、国等が地形の勾配・川幅・流速で機械的に割り出した数字である点に、留意が必要です。

先程言いましたように、河岸浸食が生じる区域であっても、開発を規制する法規制等はありません。しかし一定のリスクがありますので、生涯学習センターを建設するのであれば、アスパルの駐車場と職員駐車場の 2 案の比較で話をする、可能な限りアスパル側に建設してもらって、且つ河川から遠ざけて中央公園側に建設してもらうなどして、災害リスクの低減は図るべきと考えています。

また、浸水を心配するのであれば、蔵書や図書館機能は 2 階に持っていく等の工夫が必要であると考えています。

## 財政課長

### 2) 財政状況・公共施設マネジメントについて

#### (歳入)

多可町の最近の財政状況につきまして説明させていただきます。

令和元年度決算をベースに説明させていただきます。この資料ですけれども、補助金や地方債などの特定財源、例えば何か建てる時にはお金を借りますけれども、他から借りて入ってくるお金は除いて町の持ち出し分、一般財源ベースで作成しております。こちらは、生涯学習センター建設も想定した計画です。

歳入に関して、地方税は、住民の皆さんや法人からの住民税、土地や家屋・償却資産等による固定資産税、軽自動車税、地方たばこ税等がありますが、人口減少や固定資産評価額低下を見込み、長期的には緩やかに減少傾向を見込んでいます。

地方交付税は、基準財政需要額という町を一定の行政水準を保って運営するために必要とされる必要経費と、基準財政収入額という税や各種交付金などの一般財源収入の差額として普通交付税があり、それと多可町独自の特殊財政、特殊事情を反映した特別交付税があり、その合計額となります。

また、臨財債発行可能額、臨時財政対策債は、普通交付税を補完する財源として借金を発行するのですが、後で返済の時に地方交付税に100%算入されるというものとして内書きしており、合わせて地方交付税等となります。

普通交付税は、合併後10年間は3町が別々に存在するものとして計算して合算する、合併算定替という制度で計算されていましたが、11年目以降段階的に縮小されて、令和3年度からは1つの自治体として算定となっており、合併した特別の扱いはなくなっています。

令和3年度までは、そのような理由でベースの部分が下がっていく状況でしたが、それ以降の減少の主な理由は地方債の償還です。町が発行して借金を返済する際に、その何割かを普通交付税の算入対象とし、例えば1億円返済したら7,000万円ほどは普通交付税に加えますという制度がありますが、それに対応する借金の返済額自体が減っており、普通交付税も減る、ということが一番大きな要因となっています。

税交付金については、国・県が徴収した税等をそれぞれ市町村に一定の基準に基づいて配分するもので、その中で一番大きなものは地方消費税交付金です。消費税を各市町村に一定のルールに従って割り振るのですが、こちらは消費税率引き上げによって令和2年度から増額になっています。

これらを踏まえて歳入合計を見ると、地方税、地方交付税という大きな部分が減っていくため、緩やかに減少していく見込みになっております。

#### (歳出)

歳出に関して説明します。

人件費は職員給与や手当が主ですが、緩やかな減少の後に横ばいを見込んでいます。令和2年度に人件費が増加していますが、臨時職員の費用が統計区分の変更により増えています、その分物件費が減少しますので、全体での影響はありません。

公債費は、地方債、町が発行しました借金の元利償還金、借入金の返済です。同様に減少傾向で見込んでいますが、特殊な事情として、この財政計画を立てた際と変わっていることがあります。令和3年度より多可町は、旧加美町区域、加美区が過疎地域に指定されています。これに伴い過疎対策事業債を活用した事業を行う場合、財政計画には過疎対策に基づく新しい事業を行う、という借金増を盛り込んでいないわけですが、そうした事業を活用する場合は計画値より増加することが見込まれます。ただ、過疎対策事業債は、発行しても元利償還金額の70%は交付税に算入されますので、適切に利用する分については、財政上大きな影響はないものと考えています。

投資的経費については、建設工事等にかかる費用で、大きな建設事業が予定される年度に大きくなっています。令和5・6・7年あたりです。補助金や借金で財源を賄う部分を除いた持ち出し分で、この金額となっております。

生涯学習センターの建設費用は、令和4・5年度で、平成25年度に検討された際の想定事業費相当で盛り込んでいます。金額は今後の検討課題になると思われませんが、金額に変動があっても財政上は対応できるものと考えています。

補助費等を説明します。各種団体への補助金や事業補助金、水道や下水道といった公営企業への繰出金、消防やごみ処理一部事務組合への負担金等が補助費等に入っています。一部事務組合負担金が多くなっている年度、令和4・5年あた

りですが、こちらは新ごみ処理施設建設に伴う負担増を見込んでいます。そして歳出全体では緩やかに減少していく見込みとなっています。

大きな投資事業がある年度を除き、概ね黒字での推移を見込んでおります。基金残高も現状維持の見込みです。地方債、つまり借金の残高は減少していく傾向で、地方債の償還額、借金の返済額が財政どれだけ影響しているかを示す実質公債費比率も問題のないレベルを維持できる見込みです。

#### (決算状況)

次に「多可町財政の状況」で、令和2年度の決算状況についてご説明させていただきます。新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、通常どおりではない1年でしたが、その対策につきましては、概ね国や県からの補助金・交付金により実施できました。

ふるさと多可町応援基金はふるさと納税を積み立てたものですので、翌年取り崩すわけですけれども、それを除いて基金を取り崩すことなく決算を締めることができています。実質収支は3億6,978万円の黒字で、取り崩しをしていないため、基金残高は若干増加で64億円。地方債残高は減少して138億円となっています。

実質公債費比率が18を超えると、借金の借入れ時に少し支障が出てきます。平成28・29・30年度で少し高い数字が続いて、令和元・2年で下がりつつあります。令和2年度は12.9で、昨年15.5から大幅に低下しております。数値は3カ年平均で見るため、問題のないレベルとなっております。

中期の財政計画、また令和2年度の決算状況について説明させていただきましたが、現在のところ財政状況は安定しております。生涯学習センターを建設するにつきましても十分対応できる状況と考えております。

#### (公共施設のマネジメント)

また、財政課では公共施設等再配置計画等によりまして、公共施設の整理等のマネジメントを行っています。その中で例えば、生涯学習センターは新築ではなく、空き施設等を利用してはどうか、という意見をいただいたこともありました。空き施設を利用するとお金が安くつく、と皆さん想像されると思いますが、空き施設を活用するにも結局は大きな改造・投資等によって大きな金額を入れないと、きっちりとした施設として活用していくのは難しい、ということになります。

また、それだけ大きな金額を投資しても、建物自体の寿命がそれほど延びるわけではありませので、結局早期に建て替えの必要が出てきます。また適切な規模・設計した物件に比べて、維持管理コストが課題になります。立地についても、一番利便性が高い立地という形にはなかなかできない。現在空き施設がある場所に整備しなければいけないことなど、利便性を考慮することが難しい点なども考えると、中長期で考えるとコスト削減にはつながらないと考えています。

一つの考え方としては、図書館、生涯学習サービスを適切に提供するため、機能的に設計された施設を最大限の活用が見込まれる場所に建設し、住民の皆さんに、とことん・どんどん活用していただくことが一番コストパフォーマンスの高い施策と考えておりますので、施設の整備も同様の考え方が最も適切である、と考えております。

(委員長)	<p>説明ありがとうございました。</p> <p>普段聞き慣れない専門的用語とか、専門性の高い説明を2人から聞かれて、すぐ「分かった」とは言い難いかも分かりませんが、都市計画マスタープランの中でアスパル周辺がどのように位置付けられているのか、防災上の観点から見てロケーションはどうなのか、というポイントを頭の中で整理いただけたら、と思います。</p> <p>財政計画につきましては、令和4・5年度で既に想定をした金額が織り込まれています。想定金額は決定したわけではありませんが、8年前の提言に基づく約9億5,000万円が目安で、同規模程度で財政計画を見ても大丈夫です、という説明でした。それが経常収支比率や実質公債費比率のような、財政的な指数で裏付けが取れているという、健全財政運営について説明がありました。</p> <p>ただ、こういう中長期の財政計画が大きく揺らぐことはないのか、という懸念もお持ちかもしれません。よほどの大きな災害、例えば南海トラフ地震のような場合には、結局は対応・サポートがあると思いますから、今のところは通常の社会の変化の中で多可町の財政計画がどう推移するか、と捉えていただけたらと思います。</p> <p>何かご質問がありましたらお尋ねください。</p>
(A委員)	<p>立地条件のところで、究極的に危うい状況というのは見込まれにくく、川から離れたところに建設する、という説明でしたが、堤防をもっと頑強で高いものにする発想はないのですか。</p>
<b>防災環境担当理事 兼建設課長</b>	<p>普通はそう考えますよね。</p> <p>平成23年に多可赤十字病院周辺で浸水があったのですが、それは川からの浸水ではなく、堤内と言うのですが、住宅地の方の水がはけ切れずにあの辺りが浸水しました。アスパルは大丈夫でしたが、元々堤防の高さも低かったので、県の方でいくらか嵩上げはされています。</p> <p>私も堤防を強化して、分厚いコンクリートを打った防波堤のようなものにすれば大丈夫だと思いますが、冒頭で言いましたように千年に1度に耐えうる構造物を造ろうとすれば、想像できないくらいの高さや幅になってしまいます。河川もダムも非現実的なことになります。</p> <p>あくまでも、ハードの観点よりもソフトの観点で、防災マップができていると考えております。</p>
(A委員)	<p>建てるとなると、総合的な観点で専門家の方に評価していただいて、できるだけ安全を確保することを考えないといけないですね。</p> <p>財政計画についてお伺いしたいのですが、地方交付税等の増減について、地方債の償還が減る分だけ減っていく、というご説明でしたが、この見込まれる前提として、人口はどういう前提で試算されていますか。</p>
<b>財政課長</b>	<p>確かに人口は、算定の1つの大きな要因です。しかし、地方交付税等の算定に用いる要素は色々な部分があり、道路延長や高齢者人口、また国でテーマを決めた地方を活性化するための予算という項目があったりします。例えば、令和3年度では、地方自治体の行政のデジタル化の項目があったりします。</p>

確かに人口減少は地方交付税等の減少要因であり、多少影響があるかと思いません。全体としては国の基本的な考え方、予算配分で地方交付税を見ると、例えば歳入、地方税が減っていくと交付税が増える要素にもなります。このように必要経費と見込まれる収入の差し引きが交付税ですので、収入が減ると交付税が増える要因にもなってきます。

その点を調整しますと、影響は非常に大きいものではありません。この10年間では国勢調査がもう1回あり、その点で人口の影響はあります。

(A委員)

ですので、前提に置かれた人口の推移を並べて欲しいのです。この計画においてのリスクをどういうふうに見られているか、その点をご説明いただきたいと思います。

財政課長

リスクと言いますと、委員長が言われたような天災や災害が考えられます。

(A委員)

この前提の人口がどう置かれているか。実際に公表されている人口の推計がありますから、それとの差があるのだったら、その根拠の確からしさというところが、リスクではないですか。

財政課長

人口は、緩やかに減少していく形で見込んでおります。国勢調査という区切りがありますので、算定に使う人口は5年置きのスパンということになります。

(A委員)

いや、それが合理的ですか、っていうことなのですね。そういうふうな計画の置き方をするのもかもしれませんが、われわれ住民からすると、実際の人口は減ってきているじゃないですか。10年前の財政計画を置いたときに、その10年前の人口を横に置きました、ではあまりにも荒っぽいような気がするんですけど。

財政課長

人口については、現状の見込まれる人口をベースに考えております。

(A委員)

エビデンスとして、計画の前提となる人口を載せて欲しいです。客観的な情報として、数字として出して欲しいです。

財政課長

それでは、後ほど示させていただきます。

(A委員)

お願いします。

それと、平成29年度の実質公債費比率が19.4%と高くなっていますが、どういう要因で高くなっているのですか。

財政課長

この年は、少し地方債の返済額が多かったこと、また、下水道事業への繰出金を多めに繰り出したため、この2つの要因で数値的には高くなっております。その後は、下水道への繰出金も収支の中で賄える形で適切に行っていますので、その点を含めて、この年は多かったとご理解ください。

(A委員)

借入れが多かった、ということですか。

財政課長	そうです。借金の返済とみなされる、支出が多かった、ということです。
(A委員)	分かりました。
(B委員)	<p>私が懸念しているのは、10年後・20年後に、子どもたちに財政負担を大きく掛けることが非常に心苦しい、と思っています。中央公園のプール、北アリーナ、現在子育てふれあいセンター等が入っている旧中町幼稚園等、それらは古くなったら取り壊すのか、それとも新しく再建するのか、将来の財政計画や建設計画等ではどのようにお考えなのか。それであれば、候補地はもっと広く考えられるのではないか、という懸念がありますので、町としてどのような計画をされておるかをお聞きしたい。</p>
財政課長	<p>中央公園のプールにつきましては、現状維持をしていく方向性です。北アリーナは、今のところは維持しますが、大きな改修を行う形ではなく、利用できるレベルの維持をするという計画になっています。このため、すぐに何かアクションを起こすという状況でない、とご理解ください。</p>
(B委員)	<p>プールは、最近利用者が非常に少なくなっており、幼児用のレジャープールはかなりの人数が利用していますが、深い方のプールはほとんど利用がありません。中学校がプールを一時使っていましたが、中学生も減っています。</p> <p>体育館も沢山は不要、という時代になってくるにあたり、あの付近の計画をもう一度見直されたら、生涯学習センター兼、子育てふれあいセンター兼、図書館兼、のような複合的な施設が考えられると思います。町の姿勢としてももう少し総合的に考えていただけるよう、要望いたします。</p> <p>もう一つは、この生涯学習センター及び図書館の建設にあたり、町はクラウドファンディングの採用等はお考えにはないのですか。</p>
財政課長	<p>2025年までの公共施設等再配置計画の中では、検討課題かとは思いますが、現在のところは、まずは維持管理するもの考えています。</p> <p>また、財源も合併特例債事業を考えておりますので、その他の財源は想定していない、というのが現状です。</p>
(A委員)	<p>昨年度から「地域の学校教育のあり方を考える会」を立ち上げられて、3中学の統合を検討されているかと思うのですがけれども、そちらに傍聴に行った際、確か令和8年度に3中学を統合して、30億円で新校舎を建設すると聞きましたが、財政計画に織り込むとどういうことになるか、教えて欲しいです。</p>
財政課長	<p>説明の中では触れなかったのですが、中学校統合に想定される事業費は、計画中に織り込んでいます。実施されるかは分かりませんが、実施されても大丈夫なような形で、金額・数字の方はそれに耐えうる想定額、想定ベースで見込んでいる、とご理解ください。</p>
教育担当理事兼教育総務課長	<p>付け加えさせてください。中学生の生徒数が減っている中で、1学年1クラスの現状が、今、八千代中学校と加美中学校で生じております。昨年度の7月から</p>

<p>(委員長)</p>	<p>「地域の学校教育のあり方を考える会」を立ち上げて、議論をしているところです。令和8年度に中学校が統合する、というご発言がありましたが、まだ「考える会」で議論している途中です。現状については8月に各区で説明会を開催する予定ですが、議論の途中であるということは、お間違いのないようにご理解ください。もちろん場所等も、全く未定です。</p> <p>他に質問はありませんか。</p> <p>説明いただいたお2人、これを持ちまして退席していただけたらと思います。ありがとうございました。</p>
<p>次第6</p> <p>(事務局)</p> <p>(A委員)</p>	<p><b>委員によるプレゼンテーション</b></p> <p>本日も3名の委員にプレゼンテーションをお願いしています。</p> <p>(要約)</p> <p>私は公募委員に応募した動機と、検討委員会に参加させていただいた感想をお話しさせていただきたいと思います。</p> <p>私自身多可町で生まれ、就職してからも4年間ほどは多可町に住んでおりました。町外へ出ていたのですが、6年前に多可町に戻ってまいりまして、仕事や生活環境の変化になかなか対応できないと思う中で、ふと休みの日に図書館に行ってみよう、って思いました。それで多可町図書館に通うようになりまして、私の中では癒やしの場になって、よく多可町の中で一番好きな場所は図書館です、って言うのですが、そのぐらい私は非常に好きな場所です。</p> <p>図書館で入り口正面のところに図書館の方が選んでくださった図書が並んでいまして、背表紙を眺めるのが非常に好きで、そこでとても感銘を受けた本に出会いました。あまりにも感銘を受けたので、この本をぜひ町内の中学生に読んでもらいたい、と思って、図書館のどこかに張ってもらえないかな、と思って、この本はいいよ、1回読んでみて、それで一緒に話しをしよう、っていうお誘いの手紙を持っていったことがあります。</p> <p>何故がそう思ったのか、というと、図書館はインプットする場であり、インプットをし続けていくと、アウトプットしたくなるため、アウトプットできるような場所があったらいいなと。それが図書館だったらいいな。だからアウトプットできる図書館、話ができる図書館はいかがですか、ということをお皆さんに問い掛けようと思って応募しました。</p> <p>余談ですが、新聞広告で、あなたの大切な1冊を、養護施設の子どもたちへ、メッセージを付けて贈ろう、っていうクラウドファンディングのプロジェクトを見つけ、すぐに参加しました。いろんな実現の仕方があるのだな、と思いました。</p> <p>初回の検討委員会に参加し、先程のように話せる図書館のことを言えばそれでいい、と思って参加したら、図書館ではなくて生涯学習センターを作る、という話で、面を食らうというか想定外で、生涯学習という言葉は聞くけれど、生涯学習が何か考えたことがなかったことに気が付きました。</p> <p>その日に私は、生涯学習で取り組まれていることはどんなものがあるかをお伺いして、色々な資料を出していただきました。</p>

その後、地域共生社会づくり報告書を読んで、生涯学習の一環で何をやられているのか、何をやろうとされているのが大変よく分かりまして、それを2回目の委員会までに読みました。一昨日はコークラボに行き、非常に感銘を受けました。

後々、建設して良かった、と言われる生涯学習センターを考えるようになりましたが、みんなが使い続けるとか触れ合う場とか、結局使い続けたら成功なのだと思います。だから、できたらとにかくみんなで使うと、使うことを考えることがやっぱり必要だと思っています。

推計では40年後・2060年の多可町民は6,935人となっておりますので、この6,935人が40年後も楽しくみんなで使っている、集まっている、というふうなものを是非皆さんと考えたい、作りたい、と思っています。

第1回の委員会で町長が挨拶されましたが、その中で「そこへ行ってさえ誰かがいらっしやって、誰かと一緒に学べる。そこへ行きさえすれば、自分が一歩大きくなれる。そのような施設が必要」とおっしゃって、まさしくその通り、だと思っています。

次に平成25年10月の(仮称)生涯学習センター建設基本計画書(提言書)を読み直しました。3カ月でよくもこれだけの計画をまとめられたな、というのが率直な感想です。ただその一方で、やっぱり3カ月でまとめられたのには理由があるのかな、ということを考えたら、それは中央公民館と図書館の建て替えであり、これを計画書の図面を見ていたら、メッセージとして伝わってきます。ただし、生涯学習センターというメッセージにつながっているのかに疑問があり、だから今この建設委員会があるのかな、というふうにも思いました。

2年半前に、八千代北小学校の跡地利用の検討委員会で、利活用についてプレゼンしました。私はその中で「バンド練習スタジオから多可芸術の森へ」という発表をしました。平成25年の提言書を見ますと、その中に防音設備のある音楽室が入っていることに驚きました。当時いろんな住民のニーズを把握しながら、3カ月で提言書をまとめたことは、大変な苦勞とエネルギーだったと想像できますが、今回はやはり生涯学習を正面から考えたい、と私は思っています。

それと環境変化に関しては、少子化の関係で中学校統合の話があるため、空き校舎の活用も委員会の中で議論をすべきだと思います。学校と学ぶということは、非常に相性が良いと思います。でもそれは、みんなで議論した結果出てくることなので、逃げずに議論したいと思います。

それから交通難です。多可町はやっぱり広いので、子供・高齢者の方のアクセス手段は重要な論点です。

私の提案ですが、生涯学習センターをどう使っていくかが見えないと、何を作るかは当然見えてこないと思いますので、組織として生涯学習センターを早く立ち上げるべきではないのかと考えました。

(C委員)

(要約)

私は生涯学習センターに期待することで、公募委員の応募レポートに書いたこととお伝えしつつ、お話をしたいと思っています。

余談なのですが、先日とある会社のパンフレットを読むと、カルチャービジネス、地域格差、情報格差に目を向けた社会、地域への貢献とか、マーケットビジネス、コンサルティングビジネス、マーケティング分析・戦略、未来貢献、オー

ガニックの活動など色々な企業があるのですが、本来はそういうことはビジネスにはなり得ないことだと思うのです。大きな会社がやっていくのではなくて、もっと小さなレベルで、小さなその地域の経済活動、というのが私は大事だと思っています。

大事にしたいのは、行政にお任せする時代は終わっているということです。だからといって、住民が中心でやっていくにも、ボランティアや非営利で活動する時代も終わっていると思っています。民が主導で行政を引っ張っていき、行政の予算を（ちょっと失礼な言い方ですが、）民がいかにかうまく使うか、というのが私の課題になっています。

そういう点で、生涯学習センターという大きく、新しくせっかくできるもので、図書館の機能があり、生涯学習、学ぶ、子育てや、全ての多可町の基盤になるべき場所ができるもの関わらせてもらっているので、その自分のテーマも踏まえつつ、皆さんと議論を交わしていければ、と思っております。

レポートのときに私が期待することを4つ挙げました。1) 生涯学習として自身が学ぶだけでなく、得た知識や技術等を次世代へ継続できるシステムが構築できること。2) 生涯学習として得た知識や技術を、小さな経済活動に変換するシステムが構築できること。また、その小さな経済活動を、多くの人が気軽に始めることができるシステムを構築すること。3) 小さい子供やファミリー層を対象とした、木育が実施できる場所があること。知識と技術を持った高齢者の方が次世代にその木工の技術とか、体験・知識をバトンタッチできる場所であること。4) 2) と関連して、ママさん世代、小さな農家さん、ハンドメイドや手芸が趣味といった人たちが、大きな収入にはならなくても、日々のお小遣い稼ぎができ、育休、休業中のママさんでも、自分のスキルがお金に変えられるような場所があったらいい。の4つです。

大きな経済循環でなくても良いので、多可町の皆さんが持っている知識・興味・関心・スキルに対して、多可町の人々が納得して対価を払って、小さな経済循環の輪っかがたくさんある、そういうことが詰まった施設にしていったらいいな、という構想が自分の中にあります。

これは私の提案ですが、できれば運営自体は、例えば官民連携のNPOとか一般社団法人とかを設立して、自治体の職員も関わってもらい、民の人たちも運営自体に関わっていくような運営体制についても議論ができれば、と思っております。NPOや一社でしたら、役場職員が出向という手段もありますし、民の登用も可能性として充分あります。

そういう官民連携のハブとして、私も個人的にもお手伝いをしたいと思っておりますし、皆さんと運営体制についても今後議論ができればいいな、と思っております。

(D委員)

私からは、かねてからの思いや、参考までに是非紹介したい町があるのでお話しさせてください。

新施設に望むことは、きっかけづくりの場所であって欲しいな、と思っております。自分の好きなことや得意なこと、それが誰か・何かのきっかけになって、自分にとっても、相手にとっても幸せなことになる、それが叶うような場所があればいいな。それがこの新センターであればいいな、というふうに漠然と思っております。ライフステージの異なる人々が共に利用できて、利用しやすい施設である

ために、ある程度の大きさの枠の中に色んなエリアがあって、気軽に行き来できて、個も尊重しつつ、一方で相互交流ができるような仕組みがあって、共生・共有・共存意識が自然に育まれていくような開かれた施設がいいな、というふうに思っています。

以前偶然見たテレビ番組で、ある町を知りました。多可町がこんなふうになったら、将来に希望が持てるかな、子育てとか、生きやすいかな、と思いました。

岡山県の奈義町という町をご存じでしょうか。平成26年に合計特殊出生率2.81を記録されて、子育てがしやすい町といわれているところです。令和元年には2.95人を達成したそうです。目標としては人口6,000人維持を目標として、子育て支援に大きく舵を取った町です。

そちらに「なぎチャイルドホーム」という施設があります。子育てふれあいセンターと地域の方々、センター利用者OBなどが、個々のスキルや生活の知恵を共有してくれる世代を超えた出会いがあって、提供者も利用者も個々の得意分野が生かせる場所だそうです。利用対象や年齢制限はありません。地域の学生やおじいちゃん・おばあちゃんにまで誰にでも開かれた空間だそうです。運営は、お父さんやお母さん、町内の色んな大人たちが協力して運営されているそうです。野菜や穀物を育てたり、おやつや料理を作ったり、浴衣の着付け、絵本の読み聞かせ、お便り作り、イベントの企画や運営をしたりされています。大人が自分のできること・得意なことを通じて、子育てに参加できるようになっています。

そして、連携している仕組みも、まちづくりに生かされています。一時保育サポート「すまいる」というものがありまして、家庭の事情などに合わせて、子どもの一時的な預かりや社会的な経験の場づくりなどで、子育て家庭をサポートされています。毎年、会員の中から世話係を選出され、総会や春バザー、交流会、まとめの会などの運営をされています。

また、育児と仕事のバランスも大切にしつつ、空いた時間を生かして地域の担い手として社会参加をしたいお母さん方にセミナー案内や情報提供を行うことで「しごとコンビニ」という事業とも連携をされています。こちらは『しごと』を通じて多様な人の望む生き方を実現するを理念に、人を起点とした「ひとづくり」と「しごとづくり」を官民連携で行う「業務委託型短時間ワークシェアリング事業」というものだそうです。私も2人目の出産を機に仕事を辞めておるのですが、次に社会復帰をするときに、どういったものがやりやすいのかな、ということを探している最中なので、ものすごく覚えているのです。こちらは、年齢や時間など何かしらの制限があって、これまで働きたいけど働けなかった人たちの、「誰かの役に立ちたい」「誰かと繋がりたい」「社会と繋がりたい」「これまでの経験を生かしたい」「成長したい」そうした望みを、「大事にしたい人やコト」を大事にしながら働けるよう、一人一人の「現状」と「望み」に寄り添いながら、ちょっとだけ手伝って欲しい人とちょっとだけ働きたい人を発掘してつなぐもの、だそうです。地域が抱える少子高齢化や人口減少、人手不足などの様々な課題とも繋がりが深く、そうした課題の解決手法の一つにもなっています。

「しごとコンビニ」は、奈義町では、例えば子育て世代の主婦が町内の事業者の仕事を内職されて、その時間は施設内の託児スペースで他のおばあちゃんやOBのスタッフが遊んでくれている。それは30分や1時間からの短時間でもできる仕事で、報酬は現金ではなくポイントでもらい、そのポイントは町内施設やお店・事業者などと連携して、貯めて使うことができる。そういったポイントが普

	<p>段の生活に密接しているの、生産も消費も町内で行えて、便利で町も潤う、というようなシステムでした。多可町の健幸ポイントや商品券のイメージに近いかもしれません。</p> <p>多可町でも色々な事業が行われていて、子育てふれあいセンター、図書館、ワークゼミ、ファミリー・サポート・センター、シルバー人材センター、生涯学習講座など、いろんなことがあると思います。</p> <p>他の委員も言われているように、官民連携はどんどん進んでいったらいい、と私も思っていて、何かヒントがないかと思い、奈義町のことを紹介させていただきました。</p> <p>仕事と生産・消費・施設利用・学び・遊び・健康など、可能なことをできるだけ連動させて、町民が生涯学習をすることが日々の生活や生産活動とか、経済活動を動かして、町民も町も元気に潤っていく施設、っていうことができればいいな、というふうに私は思っています。</p> <p>このようなことを期待して、議論に生かしていただければと思っています。</p>
<p>次第7</p> <p>(事務局)</p>	<p>議事(2)第4回検討委員会へ向けて</p> <p>第4回の検討委員会の提案をさせていただきたいと思います。</p> <p>第1回の委員会で、施設の運営方針についてもご意見を頂戴したい、と申し上げました。次回、施設ができた後を見据えながら、運営について考えていただきたいと思います。</p> <p>委員のプレゼンにもありましたが、近年の公共施設は官による運営だけではなく、官と民が連携、あるいは施設も民へ預けて全部お任せしているような事例もあります。現在、そのような事例を情報収集していますので、この施設、どんな運営方法がいいかな、というイメージを膨らませていただきたいと思います。そこから再度コンセプトや機能を考え直す、ということになるかもしれません。</p> <p>今日はたくさん勉強していただきましたが、そろそろ、意見を出し合いながら、集約しながら、まとめていく方向へ行きたいと思います。次回はグループワークをやりながら、ワイワイやる格好で組み立てていきたいと思います。</p> <p>第4回は、令和3年9月9日(木)、午後7時、八千代コミュニティプラザでお願いします。</p>
<p>次第5</p> <p>(委員長)</p> <p>(E委員)</p>	<p>報告事項</p> <p>終了予定時刻が迫ってきて、報告事項の時間が取れていないのですが、視察研修、多可高校生とのワークショップ、中学生サミット、出席いただいた委員さんで簡単に報告をお願いします。</p> <p>7月21日(水)午後に町バス等で福崎町立図書館、三木市立中央図書館、この2カ所を視察してまいりました。</p> <p>どちらも建設・敷地の面積はほぼ似たような2,000㎡程度でした。特色は、福崎町は多可町の人口と似通ったところですが、登録者数が90%以上、非常に高い登録者になっております。三木中央図書館も登録者は50%を超えている。ただし、どちらも町外が4分の1強ぐらいは入っているようでございます。</p>

	<p>福崎の特色は、ボランティアの図書館の応援隊が 60 名程度で委員会を作って、活発に動いておられるようでした。サービス指標で言いますと、福崎は週 1 のお休み、三木は 3 カ所に分かれています、月 1 のお休みで、ローテーションを組んで大変と思われていますが、非常にサービス指標が高い状況でした。</p> <p>福崎が平成 17 年 7 月、三木が平成 27 年 7 月にオープンで、比較的新しいところです。また今後の検討委員会の中でお話ができることがありましたら、そのときにお話しします。</p> <p>(F 委員)</p> <p>7 月 30 日(金)多可高校生とのワークショップに同席しました。</p> <p>9 名の高校生に出席いただき、丹波市の支援組織の運営でワークショップをしました。</p> <p>最初は、4 年後の自分はどうなっていますか、っていうことから始められて、4 年後に施設ができたときに、自分は何をしているか、という話からどういう施設があったらいいでしょう、と順々に導いていられました。</p> <p>2 時間という長い時間話し合いをしましたが、どんな施設がいいかという話になると、色々言葉が出てきて、ゴロゴロできる芝生があったらいいな、とか、私たちに思い付かないような話もしていました。</p> <p>4 年後の自分の中に、役場の職員になりたいとか、そういう希望を持っている人もいて、多くが外へ出て就職してしまうのに、地元に残ろうという子がいたことを、嬉しく思いました。そういう人たちこそが、ここへ来て、一緒に話し合いをして、その施設に対しての責任感も持ってくれたら、一緒に活動していけるような思いを持ってくれたらいいな、と思いました。</p> <p>(G 委員)</p> <p>7 月 31 日(土)中学生の多可町サミットに同席しました。</p> <p>大変素晴らしい内容で、今度たかテレビで放映されるので、是非皆さんに見てもらいたいです。</p> <p>加美・中・八千代、3 校の中学生が集まって、私達顔負けのグループワークをして、子どもが普段思っている意見を取りまとめてくれて、想像もできないぐらい素晴らしい意見を発表してくれています。</p> <p>今度皆さんに出会ったときに、見てくれました？って尋ねますので、また感想を聞かせてください。</p> <p>その中で子どもたちは、今度できる施設にスターバックスみたいなカフェがあったらうれしいとか、ゆとりのスペースが欲しいとか、様々な意見を言ってくれています。それを聞くだけでもすごく楽しいので、ぜひ楽しみにしてください。</p>
<p>次第 8</p> <p>(委員長)</p>	<p>閉会</p> <p>3 人の方には、充分時間が取れなくて、申し訳ありませんでした。今後の議論の中で、先程の報告を生かせるように進めていきたい、と思います。</p> <p>中学生も高校生も含めてですが、結局、提案するだけじゃなくて、自分たちも将来関わって運営の中のスタッフになって欲しい。</p> <p>先程 3 人の公募委員さんが言われた、みんなで作っていこう、提案した以上は自分・みんなも責任を持って、まちの拠点として作っていこう、育てていこう、</p>

---

みんなで集いましょうと。そして、そのきっかけづくりとか、それが大きな輪になっていったらいいじゃないか、ということを思いました。しかし、それをどう作っていくか、言うなれば建設計画を検討する委員会ですけれども、将来に向けてこれをどのように活用していくかという、そこにまた力点を置いて、今後検討していけたらなと思います。

本日、候補地について、行政からの説明も聞きながら一定の方向性が見えたような気がします。これもまた併せて、皆さんとグループワークの中でさらに深めていけたらなと思います。それと運営をどうしていくのかについても、今日の公募委員さんの意見も踏まえながら、今後、議論していけたらなと思います。

これで終わりたいと思います。今日はどうもご苦労さまでした。ありがとうございました。

---